

第6回教育フォーラム

最首悟講演会



「学校ってなんだろう？教育ってなんだろう？」

～“いのち”から考える～

不登校・虐待・早期教育などの問題が深刻になっています。

教育のあり方が、昨今の社会のあり方を反映しているのではないのでしょうか。教育の現場で、生きるということを真正面から捉えずに、避けてきたツケが廻ってきたとも言えましょう。命の弱さと強さや人間の自立と依存などの二面性、また、共生の本質をどのように受け入れていくかについても、障害のあるお嬢さんを授かった時から、むしろ、足が地に付いたとおっしゃる最首さん。星子さんとの生活を通して見えてきた教育観・社会観をお話していただきます。

講師プロフィール

1936年生まれ。福島県生まれ。
東京大学教養学部助手を27年間勤める。
元恵泉女学園大学人間環境学科教授。
元和光大学人間関係学部教授（環境哲学）、元人間関係学部学部長。

駿台予備学校論文科講師。

障害者作業所「カブカブ」運営委員。

小学校が9年かかったことが良くも悪くもその後の生き方に影響している。

40歳のときに4番目の子ども星子が生まれる。いのちはやさしくていとおいしい、そして一方で荒々しくて、コントロールすることはむずかしいと思う今は、気分はいつも星子のそばに居て、そこから見直し考えるようにしている。

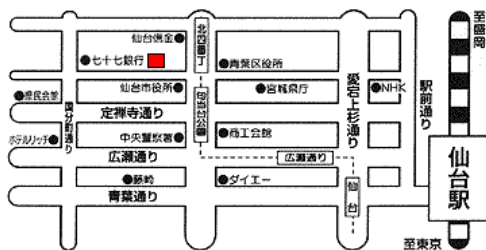
著書

- 『生あるものは皆この海に染まり』（新曜社、1984年）
- 『明日もまた今日のごとく』（どうぶつ社、1988年）
- 『水俣の海底から』（京都・水俣病を告発する会、1991年）
- 『星子が居る』（世識書房、1998年）
- 『理科を変える、学校が変わる』（七つ森書館、2001年、盛口 襄・山口 幸夫）
- 『お医者さんになろう 医学部への小論文』（駿台文庫、2001年）
- 「ケアの淵源」（川本隆史）『ケアの社会倫理学（有斐閣選書）』（有斐閣、2005年）
ほか多数

◆日時 2008年7月19日土曜日

13:30～

◆場所 宮城県自治労会館4階
仙台市青葉区二日町7-23



◆参加費 500円

◆主催 「教育フォーラム」実行委員会

◆後援

みやぎの教育改革を考える県民の会

宮城高校ネットワークユニオン

◆連絡・問合せ先

宮城高校ネットワークユニオン。

022-713-8728

